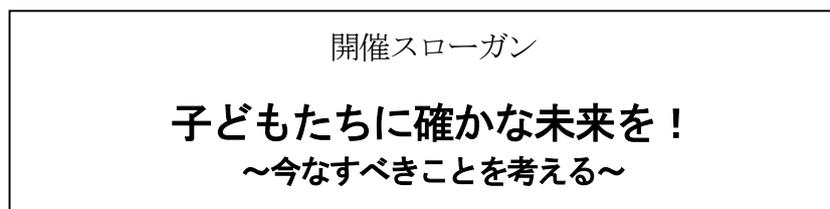


VI 研修委員会

① 全附P連PTA研修会 第7回全国大会 報告

平成28年9月30日～10月1日の2日間に渡り、ハイアットリージェンシー東京に於いて、全附P連PTA研修会第7回全国大会を開催した。



1日目<9月30日(金)>

< 事前講習会 >

教育後援会 初任者セミナー (10:30～12:00) (参加登録人数38名)

<座長>

久保眞司 全国国立大学附属学校PTA連合会 顧問

岡山和広 全国国立大学附属学校PTA連合会 顧問

11:30	12:30	13:45	14:00	15:40	16:00	17:40	18:10	20:00
受付	オープニング セミナー 75分	休憩	全体会・基調講演※ ※副島 賢和 氏 (昭和大学病院内「さいかち学級」 担当、ホスピタルクラウン) 100分	休憩	テーマ別分科会 (3テーマと特別支援部会、 教育後援会会長会) 100分	休憩	情報交換会 110分	
<パネル展示> 絵画コンクール入賞作品・特支記念品展示								

1. オープニングセミナー (参加登録人数656名)

1. ムービー上映「今語り伝えたい、附属ヒストリー」

<制作>

久保眞司 全国国立大学附属学校PTA連合会 顧問

2. パネルディスカッション

<テーマ>

こんな現状の附属学校は本当に必要なのか

<コーディネーター>

岡山和広 全国国立大学附属学校PTA連合会 顧問

<パネリスト>

柳澤好治氏 文部科学省 高等教育局 大学振興課 教員養成企画室長

首藤敏元氏 全国国立大学附属学校連盟 理事長

井上恒治 全国国立大学附属学校PTA連合会 会長

3. 財政教育プログラム概要説明

呉本啓郎 全国国立大学附属学校PTA連合会 専務理事

上田稔市氏 財務省 大臣官房 地方課 課長補佐

2. 全体会

1. 開会の言葉

田中米育 全国国立大学附属学校PTA連合会 副会長

2. 会長挨拶

井上恒治 全国国立大学附属学校PTA連合会 会長

<休憩中> カンガルー保険のPR

3. 基調講演 (参加登録人数732名)

<講師> **副島賢和氏** 昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授、ホスピタルクラウン

<演題> **こころの声**が言葉になる

～院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なこと～

<司会> 山形拓生 全国国立大学附属学校PTA連合会 理事

4. テーマ別分科会

分科会1 **心身の発達の課題とインクルーシブな発達支援** (参加登録人数156名)

<座長>

小塚泰博 全国国立大学附属学校PTA連合会 広報委員長

杉山明夫 全国国立大学附属学校PTA連合会 理事

<コーディネーター>

高橋智氏 東京学芸大学 総合教育科学系 特別支援科学講座 教授

<レクチャー>

神長涼氏 NPO 法人東京都自閉症協会 「注意欠如・多動性障害と書字障害について」

奥村遼氏 都立高島特別支援学校 教諭 「LGBTについて」

<アドバイザー>

副島賢和氏 昭和大学大学院 准教授、ホスピタルクラウン

分科会2 **命を守る防災教育** (参加登録人数192名)

<座長>

鈴木信雅 全国国立大学附属学校PTA連合会 副会長

大倉宏治 全国国立大学附属学校PTA連合会 財務委員長

<講師>

木村忠彦氏 大阪市北消防署長

分科会3 **アクティブラーニングの実践に向けて**

～附属ならではの取り組み「財政教育プログラム」～ (参加登録人数220名)

<座長>

竹川裕之 全国国立大学附属学校PTA連合会 副会長

山形拓生 全国国立大学附属学校PTA連合会 理事

<講師>

當間和幸氏 財務省 大臣官房文書課広報室 課長補佐

海老原宗貴氏 財務省 主計局 調査課 課長補佐

丸野亨氏 大阪教育大学附属平野小学校 副校長

特別支援部会 未来の「共生社会」を考える
 ～附属特別支援だからできる就労支援とは～ (参加登録人数50名)

<座長>

- 戸栗倫子 全国国立大学附属学校PTA連合会 特別支援委員長
- 平岡昌純 全国国立大学附属学校PTA連合会 理事
- 岡部太郎 全国国立大学附属学校PTA連合会 顧問

<事例報告>

- 山崎敏秀氏 高知大学教育学部附属特別支援学校 副校長
- 渡邊恵理氏 愛媛大学教育学部附属特別支援学校 副校長

教育後援会会長会 これからの教育後援会に求められる機能と課題 (参加登録人数91名)

<司会> 神余智夫 全国国立大学附属学校PTA連合会 総務委員長

<座長> 久保眞司 全国国立大学附属学校PTA連合会 顧問

<助言者>

福島哉史氏 文部科学省 高等教育局 大学振興課 教員養成企画室 室長補佐

<アドバイザー>

岡山和広 全国国立大学附属学校PTA連合会 顧問

<コメンテーター>

- 田中米育 全国国立大学附属学校PTA連合会 副会長
- 呉本啓郎 全国国立大学附属学校PTA連合会 専務理事

5. 情報交換会 (参加登録人数650名)

1. 会長挨拶 井上恒治 全国国立大学附属学校PTA連合会 会長
 2. 来賓挨拶 柳澤好治氏 文部科学省 高等教育局 大学振興課 教員養成企画室長
重藤哲郎氏 財務省 大臣官房地方課長
 3. 乾杯 首藤敏元氏 全国国立大学附属学校連盟 理事長
 4. 閉会の言葉 竹川裕之 全国国立大学附属学校PTA連合会 副会長
- <司会> 天野ひかり 東京学芸大学附属小金井中学校PTA

2日目<10月1日(土)>

8:00	8:30	9:30	10:45	11:00	12:15	12:45
地区会長会 (一部)	受付	本講演1 菊池 桃子 氏 (女優、戸板女子短期大学 客員教授) 75分	休憩	本講演2 原 晋 氏 (青山学院大学 陸上競技部監督) 75分	閉会 行事 30分	
<パネル展示> 絵画コンクール入賞作品・特支記念品展示						

6. 本講演1 (参加登録人数702名)

<講師> 菊池桃子氏 女優、戸板女子短期大学客員教授

<演題> 夢をつむぐ子育てとソーシャルインクルージョン

～未来を拓く子どもたちのために、今、私たちがすべきこと～

<司会> 三浦 享 全国国立大学附属学校PTA連合会 研修委員長

7. 本講演2 (参加登録人数703名)

- <講師> 原 晋 氏 青山学院大学 特別研究員 陸上競技部監督
<演題> 子どもをやる気にさせる、成長させる、成功への方程式
逆転のメソッド～教師として親として今できること～
<司会> 杉山明夫 全国国立大学附属学校PTA連合会 理事

8. 閉会行事

- | | | | |
|----------|------|------------------|-------|
| 1. 会長挨拶 | 井上恒治 | 全国国立大学附属学校PTA連合会 | 会長 |
| 2. 大会宣言 | 鈴木信雅 | 全国国立大学附属学校PTA連合会 | 副会長 |
| 3. 次回案内 | 三浦 享 | 全国国立大学附属学校PTA連合会 | 研修委員長 |
| 4. 閉会の言葉 | 鎌田城行 | 全国国立大学附属学校PTA連合会 | 副会長 |

(大会宣言の内容)

大 会 宣 言

わが国には急速に進む国際化、高度情報化に加え、他に類を見ない早さでの少子高齢化、人口減少の波が押し寄せています。同時に働き方や社会構造の変化が子どもたちの教育環境にも影響を及ぼし、「子どもの貧困」など新たな問題も発生しています。こうした社会的問題に正面から向き合い、いち早く解決の糸口を見つけ先導的に取り組むことが、いま国立大学附属学校に求められていると強く確信するものであります。

そうした附属の役割を再認識し行動すべく、【子どもたちに確かな未来を！～今なすべきことを考える～】の大会スローガンのもと、第7回目となる研修会全国大会をハイアットリージェンシー東京にて開催いたしました。

国の教育政策推進の拠点校であり、地域の縮図「モデル校」として地域教育機関と連携し、教育活動の一層の推進に寄与していくことが附属に求められている大きな使命であることを再確認し、「我々PTAとして、なすべきことは何か」を参加者全員の共通テーマとして2日間にわたり学び合い、改めて公教育の基盤としての附属学校の必要性を認識するに至りました。私たち連合会は、今後も日々のPTA活動を通して、わが国の教育全般の発展に寄与することをここに宣言いたします。

平成28年10月1日
全国国立大学附属学校PTA連合会
全附P連PTA研修会 第7回全国大会

9. 展示コーナー (2日間)

- ・**絵画** 絵画コンクール入選作品の展示
- ・**特支記念品** 全国の附属特別支援学校生徒作の記念品の展示、製作DVD放映
クッキー販売 「理解」・「共生」の試みとして、実際に特支生徒（筑波大塚特支）による販売
- ・**カンガルー保険** 相談できるようブースを設置 DVD放映
- ・**財政教育プログラム** 概要と実施状況を展示 DVD放映
- ・**熊本地震義援金報告** 義援金総額と熊本の写真を展示
- ・**ドリンクコーナー**の併設

10. 参加登録人数 (カッコ内は去年の人数)

<地区別参加人数>		<校種別参加人数>	
北海道地区	46名 (36名)	幼稚園	117名 (99名)
東北地区	57名 (61名)	小学校	280名 (278名)
関東地区	232名 (315名)	中学校	302名 (284名)
北信越地区	54名 (29名)	高校・中等	66名 (148名)
東海地区	87名 (77名)	特別支援学校	75名 (75名)
近畿地区	66名 (74名)		
中国地区	98名 (93名)	<役職内訳>	
四国地区	57名 (53名)	保護者	638名 (690名)
九州地区	143名 (146名)	教員	125名 (129名)
合計	840名 (884名)	教育後援会	76名 (65名)
	209校園		

大会実行委員45名と、来賓・講師を加えると、総勢約900名が参加。

11. 大会総括 と 次年度への反映方針

- ① 大会の全体評価としては総じて高く(アンケート結果より)、全体としては成功だったと評価できる。関わった全ての方に感謝を申し上げたい。ただし、一部評価が低いプログラムや展示、改善を要望されている項目などがあったので、次回はそれらの改善を行ってゆく必要がある。
- ② 全体スケジュールに関して、良い部分もあったが、改善すべき点もあった。1日目、昼からの開催としたことで、例年少な目だった最初のプログラムの参加人数が増加したことは良かった。ただし、休憩時間が軒並み短く、トイレすらゆっくり行けない、せっかく展示した展示物をゆっくり見る時間がない、少し遅れがでると取り戻せない等、全てにおいて余裕がない過密スケジュールとなったことは、改善すべき点と考える。
- ③ 運営全体に関しては、今年から実行委員会を立上げ、各委員会に仕事を割り振り、全附P連全体として取り組む体制に変更した。準備員・協力員(スポット)も含めると大きな組織になったが、皆様方のご協力もあり、おおむねうまく機能し、これまで過度に集中していた研修委員会への負荷は、確実に減少した。ただし、実行委員会内部での連携など次回以降改善すべき点もあった。
- ④ 「研修委員会としての活動」は、各委員会との連携作業のため、委員会発足直後はできず、大変苦労した。大会当日まで3~4ヵ月しかない中で、新メンバーとのチームワーク醸成や、内容を理解し作りこんでいく作業が必要なため、「研修委員会としての枠の活動」は必要不可欠である。実行委員会としての活動(上記③)との両立を、初期から計画的に行っていく必要がある。